

京都市立西京高等学校・附属中学校研究大会に参加して

令和7年11月17日(月)

令和7年11月14日(金)、15日(土)の2日間、京都市立西京高等学校・附属中学校の中高一貫教育研究大会に参加してきました。

1日目は、西京高校・附属中学校の取り組み事例について今回の研究大会に向けた話がありました。本研究会は4年に1度開催している研究大会であるという説明がありました。

全体説明後は、中高の研究授業及び公開授業を行われました。中学の授業では、同じ内容をデジタル、アナログそれぞれの手法で授業をしたり、ICTを活用して生徒の解答状況を把握したりするなど様々な取り組みを見学しました。高校の授業では、解答の仕方、説明の仕方に重点においている様子を参観しました。これらの授業の中で問題は解くことができるが、不十分な答案しか作成できない生徒を多く見ました。このことに私自身も長年課題としていたので、とても興味をもって見ることができました。実際に生徒たちが自分たちでお互いの答案や解き方を話し合いながら解答をしている姿や、先生の声掛け、さらに全体への説明のタイミングなど学ぶことが多い授業でした。

午後からは、公開授業や研究授業の内容を踏まえた研究協議や、テーマ別に分かれた研究協議が行われました。「中高接続の関する指導について」というテーマで研究協議に参加したところ、中学3年生の授業を高校の先生が行っている場合や、数学は先行実施をしたりしている教科で、内進生と外進生の授業の違いへの対応について話し合ったりしました。



2日目は、寺田拓真氏から講演をしていただきました。ただ講演を聞くだけではなく、隣の先生とワークショップを取り入れながらの講演であったため、自分意見や隣の人の意見を出し合いながら聞くことができ、あっという間の90分でした。

その後、中学生、高校生の成果発表会があり、今まで取り組んできたことを5名程度のグループで発表していました。企業と協働して課題を設定し、その課題解決をどのようにしていったのかを劇形式で発表したり、用紙にまとめて説明したりしていました。どのグループの発表も素晴らしい、質疑応答においてもきちんと返答をする姿に感銘を受けました。

教頭 川村 一仁

